

第1回日米治水及び水資源管理会議について



前 研究第一部 部長 水野 雅光

1. はじめに

国土交通省河川局は、治水及び水資源管理に関して優れた技術を有する米国陸軍工兵隊との技術協力を推進するために「実施取極」を平成15年3月に締結した。

これを受け、平成16年11月16日（火）～18日（木）の3日間にわたり、第1回日米治水及び水資源管理会議が米国セントルイスで行われた。この会議に参加したので、その概要を報告する。

2. 日米代表団

日本側は、浜口達男・国土技術総合政策研究所長（団長）、柳川城二・河川局治水課長（副団長）他10名が、米国側はウィリアム工兵隊司令官（団長）、ストラウザー工兵隊セントルイス地区事務所水文水理課長他14名が参加した。



左：両国代表団全員 右：両国団長

3. 会議日程

- 11月16日 9:30～17:00 本会議
18:00～メルビンプライス堰と河川博物館視察
- 17日 9:00～12:00 ワークショップ
13:00～応用河川工学センターの視察
15:00～ミシシッピー川の調査（船上から）
- 18日 クラレンスコモンダム事業の視察

4. 本会議及びワークショップの概要

11月16日の本会議において、①河川整備における合意形成手法、②河川（流域）の自然再生手法の比較研究、③ダムにおける強振動予測手法の研究、について日米双方からプレゼンテーションを行った。それを受けて、11月17日のワークショップにおいて、議論を実施した。

合意形成手法に関しては主にマスコミとのかかわ

りに関して活発に議論が行われ、日米双方共通の課題を有しており、次年度以降も継続して議論を続けていくことの重要性を確認した。

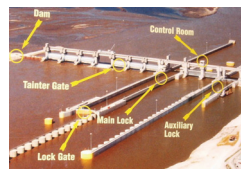
自然再生手法に関しては、モニタリング、学際的な連携、流域全体の自然再生を目指すための他機関との連携の重要性と、このような取り組みで河川行政を担当する国交省、陸軍工兵隊がイニシアティブを発揮することの重要性を確認した。



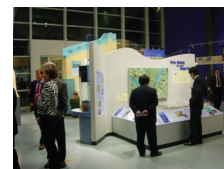
ワークショップで発言する

5. 現地視察の主な状況

- 1) ミシシッピー川には舟運の水位確保を行う閘門付き堰が29ある。その一つであるメルビンプライス堰（上流から26番目の閘門付き堰）とそれに付設された河川博物館を視察した。



左：メルビンプライス堰



右：河川博物館の展示

- 2) 応用河川工学センターでは河床変動を視覚的に捉えるマイクロモデルが製作されている。



マイクロモデルの視察

- 3) 応用河川工学センターの船着き場からセントルイス市街地を経て上流の27番目の閘門付き堰までミシシッピー川を船で調査した。



左：西部開拓のシンボルであるゲートウェイアーチ
右：アーチの展望室から見たミシシッピー川

